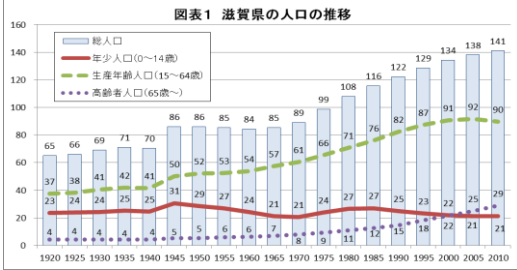


人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略 概要

I 滋賀県におけるこれまでの人口の動向

1 人口の推移

○滋賀県の人口は、1960年代後半から増加し続けていたが、2014年10月1日現在の人口（推計値）は前年比較で48年ぶりの減少となり、人口減少局面に入ったと推測



2 出生・死亡、転入・転出の推移

○「自然増減」
出生数…1.3万人から1.4万人程度で推移
死亡数…1988年から増加し始め、2013年には1.2万人

○「社会増減」
1968年以降、転入数が転出数を大幅に上回る状況が続いていたが、その差は縮小し2013年には、転出超過に転じた

3 年齢階級別の人口移動の状況

○20～24歳は大学・短大等を卒業後に、県外に就職する者が多いことから転出超過

○子育て世代を中心とする転入超過は近年減少

4 地域ブロック別の人口移動の状況

○東京圏への転出超過が継続。その他の地域ブロックでは近畿圏を中心に転入超過

II 滋賀県における人口の将来展望

1 人口の将来推計

○2040年の総人口は130.9万人
(2010年より7.2%減少)

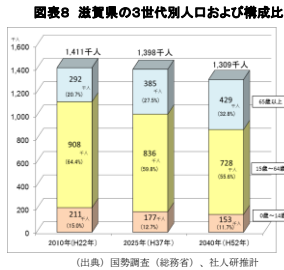
○高齢者人口は、42.9万人へ増加
(2010年の1.5倍)

2 地域別の人口動向

○各地域ごとに人口動向に差

3 県内市町の人口増減および高齢化の状況

○人口減少、高齢化の状況は市町によって大きく異なる。



III 人口の変化による影響

○人口の変化による影響について分析（暮らし、地域経済、地方行政、その他）

IV 目指す将来像

1 人口に関する目標

○総人口 2040年に約137万人 2060年に約128万人

○出生数 生まれてくる子どもの数を2020年に現状より500人プラス

(2020年に出生数13,000人とし、その水準を維持)

(合計特殊出生率 2040年に1.94 2050年に2.07)

○若者の社会増減 2020年に現状より1,000人以上プラス

(20～24歳の社会増減を2020年にゼロ)

2 将来の姿

ひと・まち・しごと
について2040年の将来の姿を展望



V 目指す将来像を実現するための戦略

1 基本的な考え方

(1) 基本的方向

「人口減少を食い止め、人口構造を安定させる」

若い世代の結婚、出産、子育てや就学・就労の希望を叶えることで人口減少を食い止め、将来的に人口構造を安定させます。

「人口減少の影響を防止・軽減する」

人口減少は避けられない中で、人口減少に対応する社会づくりを進めます。

「自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す」

これまで失われたり、十分得られなかった、自然と人、人と人とのつながりや生活のゆとりを取り戻します。

(2) 重視する視点

「3世代の自立・共生と健康」

子ども・若者と働きざかり、高齢者の3世代が自らの役割を持ちながら、ともに地域社会で必要とされ、健康に暮らせるようにします。

「未来・次世代への応援」

滋賀の未来を担う子どもたちやこれから生まれてくる次の世代を応援します。

「働く力」、「創る力」、「稼ぐ力」の向上」

滋賀でいきいきと働き、モノやサービスを創りながら、豊かな暮らしに必要な糧を稼ぐ力を向上させます。

(3) 地域の実情、特性に応じた取組

(4) 市町との連携等

2 計画期間 平成27年度 ～ 平成31年度 (5年間)

3 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりに向けたプロジェクト

(1) 人口減少を食い止め、人口構造を安定させる (重点的・優先的に取組)

若い世代の結婚、出産、子育てや就学・就労の希望を叶え、結婚、出産、子育てがしやすい環境づくりを進める(自然増に関する施策)とともに、雇用創出や魅力的なまちづくりにより首都圏等への転出を抑制し、県外からの流入人口を増やす(社会増に関する施策)ことにより、人口減少を食い止め、人口構造を安定させます。

A 自然増のための施策

- ①「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト
- ②「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト

主なKPI

- ・出生数を13,000人で維持
- ・教育の満足度を倍増
- ・水環境ビジネス関連企業・団体数を25%アップ
- ・新設事業所数を30%アップ
- ・県内大学生の県内企業就職率をアップ
- ・若者の就業率をアップ
- ・県外からの移住件数を5年間で300件
- ・観光宿泊者を20%アップ

I 社会増のための施策

- ③滋賀ウオーターパレープロジェクト
- ④次世代のための成長産業創出プロジェクト
- ⑤産業人材育成・確保プロジェクト
- ⑥働く力・稼ぐ力向上プロジェクト
- ⑦移住促進プロジェクト
- ⑧滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト

(2) 人口減少の影響を防止・軽減する

出生数の減少と死亡数の増加により、当面、人口減少が続き、その影響は避けることができません。こうした影響を緩和し、住みやすい安心できる滋賀の暮らしを実現します。

①高齢者の社会参加・健康長寿実現プロジェクト

- ②滋賀エネルギーイノベーションプロジェクト
- ③「東京オリンピック・パラリンピックで滋賀を元気に！」プロジェクト

主なKPI

- ・健康寿命の延伸
- ・新エネルギー社会の先導的な取組モデル数を5件
- ・事前合宿誘致
- ・県国土利用計画の見直し
- ・新規就農者を5年で500人
- ・鉄道の乗車人員を維持
- ・犯罪率を全国平均以下で維持

④持続可能な県土づくりプロジェクト

- ⑤「山～里～湖」農山漁村つながりプロジェクト
- ⑥交通まちづくりプロジェクト
- ⑦地域の防災・防犯力向上プロジェクト

(3) 自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻す

人口の増加による恩恵を受けてきた一方で、失われたり十分得られなかった自然と人、人と人とのつながり、生活のゆとりを取り戻し、新しい豊かさを実感できる魅力的な滋賀をつくります。

①琵琶湖と人の共生でにぎわい創生プロジェクト (重点)

- ②滋賀の農業次世代継承「世界農業遺産」プロジェクト
- ③滋賀らしいゆとり生活再生プロジェクト
- ④「ひとつながり」の地域づくりプロジェクト

主なKPI

- ・生態系に配慮した新たな指標の導入
- ・滋賀を世界農業遺産認定申請候補地域に
- ・都市公園面積を6%アップ
- ・地域づくり活動拠点を各小学校区1箇所以上確保

VI 戦略の推進

1 県民との対話と共感による推進

戦略の推進状況や人口に関する情報を共有し、現場や様々なメディアを通じて対話する機会を設けながら、県民の皆さんに共感し行動してもらえるよう推進

2 関係機関等との連携

- (1) 産官学金労言をはじめとする各関係団体との連携
- (2) 市町との連携
- (3) 関西圏、北陸圏、中部圏等との広域連携

3 実施計画の策定

プロジェクトのほか、人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりに資する施策を実施計画に位置付けるとともに、進行状況を毎年度把握し、公表

4 戦略の目標管理および見直し

点検と評価により、目標の管理を行うとともに、必要に応じて柔軟に見直し